Ovary shortly stipitate to c. 1 mm, subfalcate, 3-3.5×0.5-1 mm, glabrous, ovules 3-4, style glabrous, filiform part 0.5-1 mm, bulbous before the upcurved part for 1-1.5 mm, upcurved part cylindrical, 1.5 mm, stigma globose. Pods (immature) subfalcate, glabrous. Seeds not known.

Dumasia prazeri, named after its collector, J. C. Prazer, is easily distinguishable from *D. villosa* DC. in having larger bracts (3.5-4 mm), shorter calyx tube (4-5 mm long), vexillum with smaller claw (2.5 mm long) and style with shorter filiform part (0.5-1 mm long).

* * * *

熱帯地方に広く分布する *Dumasia villosa* DC. に近縁のミャンマー産ノササゲ属の1新種を記載した。

□藤田善彦・大城　香：**ラン藻という生きもの** i-v+134 pp. 1989. 東京大学出版会，東京. ￥1,442. 東大UPバイオロジーシリーズの一巻で，国立基礎生物学研究所勤務の2名の研究者の執筆による。藍藻の生物学，特に機能の面を中心に最新の成果が記述される。藍色細菌（Cyanobacteria）とも呼ばれる原核生物の藍藻類は，系統あるいは植物の進化を考える上で極めて重要な位置を占める生物群であり，同時に水界における有機物生産者として，あるいは栄養豊富な未来の食糧源として，さらには毒性物質を含めて薬理効果をもつ特殊な生理活性物質を生産する生物群として，最近多くの人々の注目を浴びている。人工培養の開発と藻株分与システムが確立したことから，1960年頃を境に藍藻類の研究は頓に盛んとなり，各分野の知見が急速に蓄積した。本書は主として生理化学的側面から藍藻を扱い，ともすると難解になりがちな内容をわかり易い記述で解説し，最近急速な進展を示している藍藻の研究の動向を知りたい人々に手頃な参考書となっている。大学生の副読本的な読みものとしても好適である。（千原光雄）

□堀田満ほか：**世界有用植物事典** 1,505pp. 平凡社，東京. ￥24,000. 植物編1126頁，事項編312頁および索引より成る。植物編は学名順に配列され，その大部分は図鑑にあるような種の記述であるが，有用性の高い種については品種や利用について詳記されている。とくに属や科の見出しの下には，そのグループについていろいろな参考事項が記されていて役に立つ。事項編では137の大項目が立てられている。この種のものとしては資源植物事典がよく知られているが，本書はこれと併用すべき，新しい知識を盛り込んだ一味ちがった力作である。ただ，このような大項目主義に必要な事項索引が，資源事典の約8,200項目に対して本書は約2,300と少ないのは惜しい。（金井弘夫）